



薬師池の大賀ハス紹介

2022年7月

あれから3回目のハスの開花シーズン、人々の行動は制限され貿易も落ち込み世界全体が委縮する羽目となった新型コロナ感染症。2019年秋頃、中国・武漢で発生したとされるこの忌まわしいウイルスは変異を繰り返し、日本でも行動制限の緩和があり、第7波として急速に拡大をつづけております。4回目のワクチン接種、お済みでしょうか。

こんな世の中、時には自然の美しさに振れ、英気を養い保つことが特に歳を重ねた者には必要でしょう。

ハスの鑑賞は早朝が良いと聞いていましたので、曇り空でしたが7月7日の朝、行ってみ

ました。ハスの盛りは7月中旬位からほぼ4週間くらいだそうで、満開になっているのは多くはありませんでしたが良かったです。

花弁は15~20枚、その内側に雄蕊があり中心に花托があります。真ん中に花托がせり出ています。

花弁は中心よりの色が少し薄くなっているため、雄蕊は金色（こんじき）に輝いているようでした。

これからさらに多くの花が咲きそろうと思

いますので、皆さま是非。ご観覧ください、

お薦めです

(町田 飯田光宏 39法)





「大賀ハス」は、故大賀一郎博士が一九五一年千葉県検見川遺跡で二〇〇〇余年前のハスの実三個を発掘し、そのうちの一個だけ発芽に成功したものです。薬師池公園の大賀ハスは、大賀博士と縁故のありました、町田市内の円林寺と大蔵町の故柏木常吉氏から根分けしていただいたものを大切に育てているものです。

大賀ハスは、ピンク色の大輪の花を咲かせ優雅な美しさと悠久の時を越えた生命力が尊はれています。

開花時期は七月中旬頃から八月中旬頃です。

大賀ハス

悠久の 歲月繋ぎ
ハマコソバ

